事業承継、M&A考える

東濃信金、担当職員が会議

多治見市

店の後継者を見つけられないなど深刻化する事業承継の問題に対処するため、東濃信用金庫（多治見市）は18日、事業承継とM&A（企業の合併・買収）を担当する職員の会議を同市虎渓山町のとうしん学びの丘エールで開いた。

事業承継のニーズやノウハウの共有を目的に、外部講師を招きながら毎年企画している会議。各支店などから約70人が参加した。

会議の冒頭、とうしん地域活力研究所ビジネスサポート課の職員が「廃業の一番の理由は後継者の不在だ。うち半数以上が黒字で、地元の繁盛店が惜しまれながら閉店するケースが増加している」と報告した。恵那市の老舗日本料理店を従業員が承継した事例を紹介し「事業承継とM&Aを同時並行で進めていったことが成功の要因だった」と分析を述べた。

講師として、県信用保証協会多治見支店の古田真一朗支店長と、日本M&Aセンターコンサルタント戦略営業部の伊藤泰之部長、同部の古市光マネジャーが登壇し、保証制度などについて話した。（稲木悠司）



事業承継やM&Aについて情報交換する東濃信用金庫の担当職員＝多治見市虎渓山町、とうしん学びの丘エール

無断複製・転載を禁じます